

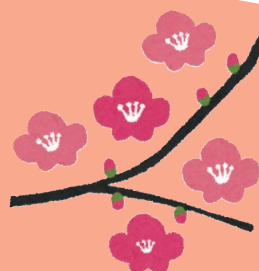


医療センターだより

よしぶえ

NEWS LETTER

No.21



2018年3月発行

基本理念

多くの人々との出会いを通じて、新しい医療環境の創造に努めます。

5つの基本方針

- 1 地域の視点に立った信頼される医療を目指します。
- 2 安全性が保障された質の高い医療を追究します。
- 3 地域の医療機関や福祉・介護との連携を進めます。
- 4 活気に溢れ、誇りを生み出す組織風土を醸成します。
- 5 公営企業として、経営の健全化に努めます。



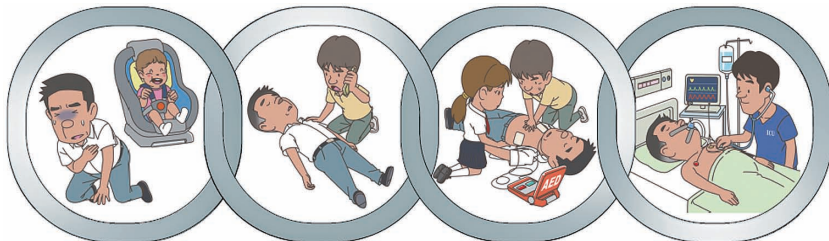
[掲載項目]

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ① 表紙 《市民公開講座》 | ④ 病院機能評価 認定更新しました |
| ② 救命・救急公開講座を開催しました | ⑤ 看護師1年目を振り返って |
| ③ こんにちは赤ちゃん | ⑥ 患者総合支援課通信 |

第1回 救命・救急 市民公開講座 を開催しました

いつどこで発生するかわからない非常事態に「救急車が来るまでにできる事」として市民が行う応急処置を学ぶために公開講座を開催しました。平成30年1月20日という寒い時期ではありましたが、多くの皆様に参加を頂き、好評に終えることができました。

救命の連鎖



心停止の予防 早期認識と通報 一次救命処置 (心肺蘇生とAED) 二次救命処置と心拍再開後の集中治療

引用；厚生労働省「救急蘇生法の指針2015 市民用」

救命の連鎖とは、急病の傷病者を救命し、社会復帰させるために必要となる一連の行いを言います。

構成する4つの輪がすばやくつながることで救命効果が高まり、最初の3つの輪は、市民が適切に行動することで救える命が増えます。

心停止の早期認識と通報



一次救命処置



心臓突然死は 年間6万人(1日160人)

救急隊の到着までの短時間であっても、市民が一次救命処置を行うことで救命の可能性が2倍程度になる事が分かっています。

皆さんの勇気ある行動が一人の命を救います。

今後も救命に関わる講座を企画していきます。ご期待ください。



N E W S 近江八幡市立総合医療センターで開催した行事・イベントや今後の予定をご紹介します。

近江八幡市立総合医療センターQI活動報告会2017を開催しました

平成30年1月27日(土)、QI活動報告会を開催しました。QI活動報告会では、医師や看護師、薬剤師などさまざまな職種の職員で構成された各チームが1年間取り組んできたQI活動の成果を発表します。

この報告会は2013年度からはじまり、今回で5回目の開催です。今回は15チームによるさまざまなテーマの発表が行われました。

当センターをよりよい病院にするために、職員が自発的に活動に取り組んでいます。発表に対して、審査員による採点、出席者による投票を行い、優秀なチームには表彰式も行われました。

>> QIとは?

QI (Quality Indicator) とは、「医療の質の指標」のことです。QI活動は、医療の質向上のための活動で、

- Plan 業務について目標にする指標を設定
 - Do 目的に向けて活動
 - Check 指標がよりよい値になっているか確認
 - Action 結果を元に再度活動
- という流れで各チームが活動に取り組んでいます。

報告会では、「地域包括ケア時代における入退院支援室の取り組み」、「研修受講率向上を目指して」、「アキレス腱撮影の補助具作製～正確なFH診断のために～」、「地域との連携～退院支援介入成果～」という発表が優秀な成績をおさめました。

患者さんによりよい医療を提供できる環境をつくるため、今後も当院ではさまざまな活動に取り組んでいきます。



こんにちは 赤ちゃん

当院で生まれた赤ちゃんを紹介します!

ママからひとこと

身長大きくてビックリ!!
これからも
すくすく育てね!



とうか
柊 佳ちゃん
(2018年2月18日生まれ/3066g)

ママからひとこと

産まれてきてくれて
ありがとう♡



あやと
彩 翔くん
(2018年2月19日生まれ/2760g)

●保護者の方から掲載希望をいただいた赤ちゃんのみ掲載しております。

『病院機能評価 3rdG:Ver1.1』認定更新しました



日本医療機能評価機構

当院は、病院機能評価を平成19年に認定取得しています。平成25年の認定更新を経て、3回目の認定を受けることができました。[平成29年12月17日認定]

病院医療機能評価とは

公益財団法人日本医療機能評価機構（第三者機関）によって、各病院が組織的に医療提供のための基本的な活動・機能が適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。

全国約8400病院のうち、約3割の病院が認定されています。

何を評価するのか

病院機能評価は、地域住民の方々が、安全で安心な医療を受けられるよう、4つの評価対象領域（1領域「患者中心の医療の推進」 2領域「良質な医療の実践1」 3領域「良質な医療の実践2」 4領域「理念実践に向けた組織運営」）から構成される評価項目を用いて、病院組織全体の運営管理および提供される医療について評価します。

更新に向けたこれまでの取組

平成28年11月16日、病院医療機能評価受審をKick offしました。院長の宣言から始まり、機能評価受審を経験された診療部医師より、当院の今までの取り組みに対する課題とこれからの展望について共有しました。そして、同年12月12日～14日の3日間、現在の当院の実力を把握するため、各部署への事前調査(ヒアリングや病棟概要確認、ケアプロセス、ラウンド)を実施し、繰り返し改善活動を重ねながら、平成29年10月3日～4日の審査に臨みました。

〈ヒアリング〉

・機能評価の評価項目ごとにヒアリングをし、当院の現状と評価項目で求められる内容を照らし合わせ、今後必要な取り組みや強化すべきポイントを確認しました。

今回の認定をさらなる励みとして、今後も医療の安全と質向上、患者権利の確立に努めていきます。

〈病棟概要確認〉

・病棟での療養環境及び、施設・設備の運用状況について「安全」「感染管理」「プライバシーへの配慮」「患者と家族の利便性」等の観点から検証を行い、改善や見直しが必要な課題抽出をしました。

[認定期間]
平成29年12月～
平成34年12月

〈ケアプロセス〉

・診療録・看護記録等を中心とした記録物の確認をしました。外来受診⇒入院⇒退院に至る患者さんのプロセスに沿って、当院で定められたルールの遵守状況を確認し、改善や見直しが必要な課題抽出をしました。

〈ラウンド〉

・外来や医療技術部門、事務部門等の現場確認をし、施設設備の運用状況について「安全」「感染管理」「プライバシーへの配慮」「患者と家族の利便性」等の観点から検証を行うとともに、改善や見直しが必要な課題抽出をしました。これらの結果を基に、改善活動が必要と判断された項目について、取り組みを始めました。



看護師1年目を振り返って



4E病棟
福本 亜妃子

入職して間もない頃は、本当にこの病院で看護師としてやっていけるのか、先輩方のようにになれるのか非常に不安でした。1日1日自分の仕事をしっかりやっとうと毎日仕事をしてきましたが、自分の知識不足で周りに迷惑をかけ、自分は看護師に向いていないのではないのかと悩むことも多々ありましたが、先輩方や同期の励ましの声かけや支えがあり、乗り越えることが出来ました。多くの患者さんと関わり、勉強して考えて行ったケアのあとに「ありがとう」と言って下さると、看護師になって良かったなと、やりがいを感じる事ができました。1年経って振り返ると、学んできたことは無駄になっておらず看護師として少しは成長できたのかなと思います。病態や技術など分からないことが多くあり、自宅で勉強したり、先輩に教えて頂き少しずつ分かってくると、技術やケアに自信をもって行えるようになっていきました。

これからはもっともっと知識を身につけ、患者さんの現病歴だけでなく、既往歴も関連させ看護が出来るようにしていきたいです。又、現在は自分のことで精一杯になっているので、視野を広げ周りを見ながら動くことが出来るようになりたいです。



3W病棟
桑原 あかね

この一年間を振り返り、大変なことや失敗も数多くありましたが、その分成長でき、やりがいや楽しみも仕事の中に見つけることができた一年でした。

4月に病棟配属が決まったときは看護師としてしっかり働けるか不安も大きく、実際に患者さんと接するときに関わり方に悩んだり、観察すべき点を見落としたり、ナースコールもどのように対応すればいいのかわからず戸惑うことも多かったです。看護技術面でも失敗することが多く、患者さんや先輩にも迷惑をかけて落ち込むこともありました。自分の失敗でインシデントを起こしたときは責任をもって看護を行うことの重要性を改めて感じました。しかし、病棟の先輩方に指導していただく中で、少しずつできることが増え、自分の自信にもなりました。また、患者さんからかけてもらった言葉は自分の励みにもなりました。

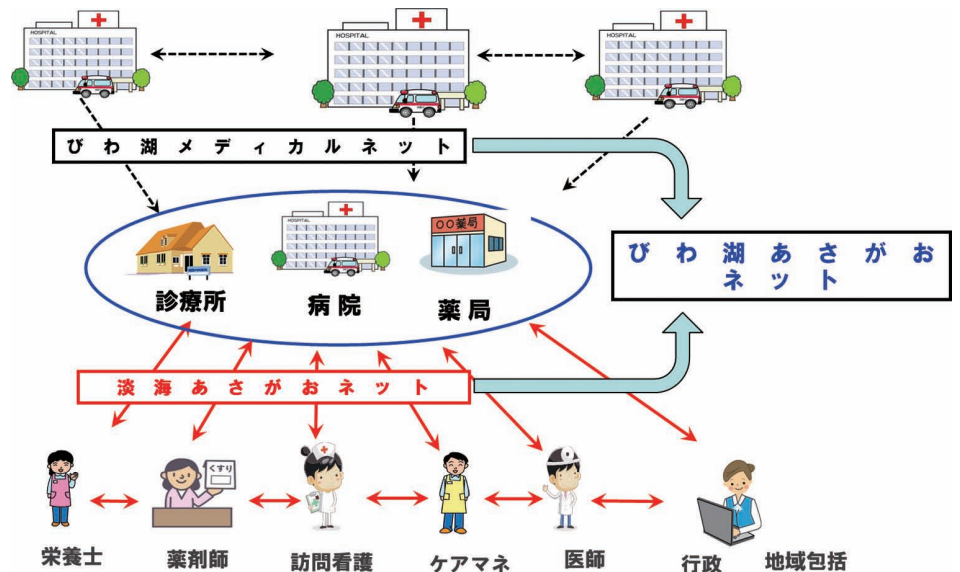
もうすぐ2年目になりますが、まだまだ分からないことも多いので日々の疑問点などは1つ1つ意識して学習していきたいです。最近では呼吸器などの重症の患者さんを受け持つ機会も有るので、正確に看護を行えるよう学習して知識・技術を深めていきたいです。また、多忙な中でも患者さんとの関わりを大切に、患者さんの気持ちに寄り添えるような看護師を今後も目指して頑張りたいです。



患者総合支援課通信

当院では、「びわ湖メディカルネット」のご利用を推進しております。

「びわ湖メディカルネット」とは、利用者が県内全域において在宅での療養から病院・診療所まで安心してご利用いただけるよう、医療機関、介護施設に対し医療・介護情報を共有することを目的としたシステムです。



このシステムを利用することで、利用者の多重診察（重複したレントゲン検査・血液検査等）の防止や、利用者のアレルギー情報等の共有も可能となります。

但し、よく知らない医師に診療情報を見られたくない、システム感染等で個人情報の漏えい等ご心配される方もおられると思いますが、利用者には事前に、「この医療機関や関連施設と情報共有しても大丈夫ですか」と問い合わせさせていただき、同意された方のみのご利用となります。また、一度同意いただいた後の撤回も可能です。当システムは非常に高いセキュリティーを確保した専用の回線を用いておりますので、安心してご利用いただけます。

今春から、当システムと、滋賀県医師会が運営する「淡海あさがおネット」が統合し、新たに「びわ湖あさがおネット」として新しく生まれ変わり、より一層切れ目のない、医療・介護連携を推進していく予定です。是非、ご利用いただきますようご案内させていただきます。

なお、当システムへのお問い合わせは患者総合支援課までお願いします。

近江八幡市立総合医療センター

〒523-0082 滋賀県近江八幡市土田町 1379 番地

TEL 0748-33-3151 FAX 0748-33-4877

<http://kenkou1.com/>

***病院へのご意見・ご質問をお寄せください。**

発行：広報委員会

当センターで医療を受けられる方の権利

1. 人権が尊重され、良質で適切かつ安全な医療を、平等・公正に受けることができます。
2. 自分の受ける医療について説明を受け、検査や治療方法などを自分で選ぶことができます。
3. 診断や治療について、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求めることができます。
4. 診療情報の提供、又は診療記録の開示を求めることができます。
5. 診療上の個人情報やプライバシーが守られる権利があります。